



学びあう心

本所中学校長 松井 隆

開校七十五周年に感謝をこめて

昭和二十二年四月、本校は、戦後の荒廃の中から新制中学校として発足し、令和四年、開校七十五周年を迎えます。この間、昭和・平成・令和の三つの時代を経て発展してきました。卒業生は、一万七千三百七十四名となり、社会の第一線で活躍されています。更に、開校以来、本所中学校PTA、かしわ会、同窓会、明德校友会、地元町会の方々等、実に多くの人々の献身的なご尽力と、愛校心、郷土愛に支えられてきました。

開校七十五周年にあたり、本校にご縁のあるすべての方々に、深く感謝を申し上げます。

さて、二十一世紀、日本を含む全世界は、地球規模で激変しています。SDGsの持続可能な開発目標が掲げられ、世界中にある環境問題・差別・貧困・人権問題等を世界の皆で二〇三〇年までに克服していこうというところが喫緊の課題となっています。また、今の中学生の半分以上の人の寿命は百七歳を越えるであろうと予測されています。確実に百年人生が到来するとともに、高度な知識基盤社会と、生涯学習社会の時代が現実のものになっていきます。このような時代にあつて、幸福な人生を眼目に、社会貢献と自己実現を図り、心豊かな人間性とたくましく生き抜く資質・能力を持つた生徒の育成がますます必要不可欠です。

そこで、令和二年、開校七十五周年に向け、今までの本校の校風を鑑み、

それまで制定されることがなかった本校の校訓を、これからの激動の時代をたくましく生き抜く生徒の育成を期して新たに制定しました。

その校訓とは、『学びあう』です。

校風と、かしわの精神と

開校以来、営々と培われてきた本校の校風は、生徒は、総じて、実に明るく元気で素直に学びあうというものです。この校風は、かしわの精神の下、本校が歩んできた歴史と伝統によつて育まれてきました。本校の教育目標は、心豊かなたくましい本中生を育成することであり、改革・真理・和合という三つの言葉を教育目標の要としています。本校の校章はペンと柏の葉でデザインされています。ペンは文化を表し、柏の葉は勇氣と積極性を示し、六角形は雪の結晶から純潔を象徴するとされています。かしわの精神は、か、改革、し、真理、わ、和合という三つの言葉の精神を意味します。改革は自己改革の情熱と向上し挑戦する心、真理は真実を学ぶ心と誠実な心、和合は和みのある豊かな感性と思いやりの心、等々の精神です。ここに、かしわの精神の所以があります。かしわの精神が本校の伝統的な行動規範となり、本中生らしきの基になって、本校の校風を形成してきました。

ところで、ここ数年来、世界的に感染が拡大し猛威を振るっている新型コロナウイルスの影響を受け、本校の教育活動にも何かと行動制限がもたらされています。それにもかかわらず、生徒は、校風に則り、明るく元気で素直に学びあっています。日々の授業や学校生活、その他の教育活動すべてに、真摯に取り組む、そんな生徒の姿が学校中のあちらこちらに満ち溢れています。人が成長する過程は、大なり小なり成功体験や失敗体験の

繰り返しです。とくに、頑張っても失敗した時等は、人は、その失敗をなかなか素直には受け入れ難いものです。それでも、生徒は、総じて、失敗を直視し、挫けることなく、明るく元気で素直に、失敗から学ぶ姿勢を忘れません。このような生徒の気質は、困難な社会の中にあっても、たくましく生き抜く力となり、すごい人間力となります。ここに、校風から生まれた本中生らしさがあります。

生徒は、この校風の中で中学校三年間を過ごし、心豊かに、たくましく成長していきます。そして、本校を母校と慕い心の故郷として、誇りを胸に卒業していきます。

だから、本校は、野球界の王貞治氏や落語界の柳家さん喬氏をはじめ、多くの有為な卒業生を各界に輩出しているのです。

主体的に学びあうこと

前述したように、今日、生徒は、生涯学習社会等、近未来社会の時代に直面しています。そのような中であって、近未来をたくましく生き抜いていくためには、学びあうことが何よりも大切です。

生徒は、皆、可能性の塊です。学びあうことは、その可能性を開花させるとともに、困難をも克服して、明るい社会と幸福な人生を創る原動力になります。百年以上に及ぶ人生においては、科学技術や生活様式、必要なスキル等は、著しく発展変化することは必至です。それだけに、常に新たな知識やスキルを習得し継続的に学ぶことが求められます。学び続けることは、とても努力を要することです。しかしながら、どのような時代にあっても、主体的な生涯を送るには、コツコツと自ら学びあうことが、必須条件です。主体的に学びあうことは、強いて勉めるような勉強とは違いま

す。むしろ、いろいろな人々との積極的なコミュニケーションを促します。それは、今までできなかったことが段々とできるようになる、努力の実りとしての楽しい営みになります。

ときに、千三百年前の時代にさかのぼりますと、当時のお寺は、学校の役割を担っていました。お寺に入門する若い僧侶の入学式の、ある有名な式辞には、学ぶ心が宝であり、学ぶ心を持った人こそが、社会を明るくする、最も大切な宝だと記されています。千三百年前も、学びあうことが人を成長させ、明るい社会を築く根本だということです。これからも、学びあうことは、世の中がどんなに急激に変化発展しようとも、活力ある社会を築き、人々の幸福な人生を創造する源泉であり続けます。

だから、『学びあう』これが本校の校訓です。これからの二十一世紀、二十二世紀、二十三世紀へと続く三百年後、いやもっと、千三百年後においても、『学びあう』ことは、どんなに激動の時代になろうとも、本校の校風の中で育まれてきた生徒にとって、幸福な生涯を実現する心構え身構えだと確信しています。

ますますの発展を期して

結びとして、本校が、これからも地域に根ざし、盤石な信頼の絆で結ばれた学校であり続けるとともに、本校のますますの発展と生徒の豊かな成長を祈念し、かしわの精神を教育目標の要として、校訓『学びあう』のもと、教職員一同、全力を尽くしてまいります。

今後とも、本校の教育活動に、ご支援とご理解を賜りますよう、宜しく願っています。